

平成27年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査(東京都教育委員会)結果の概要について

東京都教育委員会では、小学校5年生および中学校2年生を対象に、学力調査を行っています。これは、子どもたち一人一人の学習状況の改善と、各学校における授業の改善および区市町村における学力向上のための施策の充実に役立てることを目的としています。今年度は、7月2日に実施しました。小平市立小・中学校における結果の概要をお知らせします。

●教科に関する調査結果

小学校は、国語科、社会科、理科は都の平均正答率を上回ったものの、算数科では都の平均正答率を若干下回っています。中学校は全ての教科において都の平均正答率を上回っています。

「教科に関する調査」は「学習指導要領に関する内容」と「読み解く力に関する内容」の2つに分かれています。

・学習指導要領に関する内容

小学校では、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のほとんどの観点で都の平均正答率を上回っていますが、国語科の「読むこと」の「技能」や算数科の「知識・理解」などでは都の平均正答率を若干下回りました。中学校では英語科の「思考・判断・表現」および「知識・理解」以外は、全て都の平均正答率を上回っています。

・読み解く力に関する内容

小学校の理科において、「情報を正確に取り出す力」や「解決する力」など全ての観点で、都の平均正答率を上回っています。各学校で問題解決的な学習を工夫し、取り組んだ成果と言えます。他の教科においても同様の取組を基に、それぞれの観点の学力の向上を図る必要があります。中学校ではほとんどの観点で都の平均正答率を上回っていますが、英語科の「比較・関連付けて読み取る力」が若干下回りました。

●学習に関する意識調査

「学習に関する意識調査」では、各教科の内容の理解や学校以外の学習について、また生活や行動などについて大きく4項目の調査をしています。この調査によって子どもたちの学習態度や生活の態度と学力との関係を分析しています。

例えば「学校のきまりを守ることは大切か」「学校のきまりを守っているか」という質問に「大切だ」「守っている」と回答した子どもたちの国語科や算数・数学科の平均正答率は、「大切ではない」「守っていない」と回答した子どもたちの平均正答率よりも約8ポイントから13ポイント高くなっています。学校のきまりには、授業中のきまりの他に忘れ物、提出物に関するきまりも含まれることから、学力の向上を図るためにも、きまりの意義を考えさせ、自ら守ろうとする態度を身に付けることが大切です。

◆まとめ

学校は、今後も習熟度別指導や少人数指導など、きめ細かな指導を行うとともに、問題解決的な学習に積極的に取り組んでいます。また、基礎・基本の定着だけでなく、課題の発見・解決に向けた「主体的・協働的な学び」を目指し、授業改善をさらに進めてまいります。ご家庭においては、各学校から配付された個人票をご覧いただくとともに、東京都教育委員会が作成した「東京ベーシック・ドリル」の効果的な活用をはじめ、学力向上に向けた学校の取組へのご理解、ご協力をよろしくお願いします。(指導課)

東京ベーシック・ドリルについて

「東京ベーシック・ドリル」とは、小学校1年生から4年生までの国語・算数・社会・理科の基礎的な学習内容および知識を身に付けるためのドリルです。

	教科名	小平市	東京
小学校	国語	63.0	62.7
	社会	57.7	56.8
	算数	63.3	63.6
中学校	理科	68.5	67.4
	国語	56.4	54.1
	社会	53.5	51.9
	数学	58.4	56.2
	理科	51.7	49.3
	英語	59.6	59.0

注) 表中の数値は平均正答率を表す。(単位: %)

平成27年度 小平市教育研究発表会

2月3日(水)小平第一中学校体育館で開催しました。

舞台発表

■こだいらの小・中連携教育

小・中連携教育推進委員長から平成27年度の委員会の活動報告と全校が取り組む「こだいら共通プログラム」、年に3回行っている「小・中連携の日」の成果と課題について報告しました。その後、小平第四中学校区、小平第五中学校区、小平第六中学校区より中学校区の特色ある取組について紹介がありました。

■特色ある教育活動

学力の向上に関わる取組	学校	内容
学力の向上に関わる取組	小平第三小学校	「三小ベーシックプログラム」の構築と実践するための校内組織や校内研修について報告
	小平第六小学校	社会の変化などに対応する学習指導について、授業の始めの工夫や学習の見通しをもたせるための具体的な指導方法を報告
	小平第二中学校	4人1組の小集団で学習意欲を高める指導の工夫について報告
健全育成に関わる取組	小平第十小学校	道徳や人との関わりをもたせる活動を通して自尊感情を育む指導の報告

■小平市立小学校いじめ防止授業の取組

スライドショー	学校	内容
小平第一小学校から小平第十小学校まで	いじめ防止授業の様子やいじめ撲滅の取組についてスライドショーで上映し、道徳や学級活動、児童会からの呼びかけによるいじめのない学校づくりの工夫を紹介	

紙面発表

研究推進校(1年目)	学校	内容
研究推進校(1年目)	小平第七小学校 小平第十一小学校 花小金井南中学校	1年間の研究内容や成果と課題の報告
	小平第四中学校区 (小平第四中学校、小平第四小学校、小平第十小学校、小平第十五小学校)	大学と連携した英語学習についてグループ研究した内容の報告

研究を行った学校の成果を市内全校で共有し、小平市の教育のさらなる充実を目指します。(指導課)

文部科学大臣表彰を受賞

◆平成27年度優れた「地域による学校支援活動推進」に係る文部科学大臣表彰

小平第八小学校

◆第9回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等 文部科学大臣表彰

小平第十四小学校と学園東小学校

小平第二中学校の学校支援コーディネーターとPTA

いずれの表彰も、学校・家庭・地域が連携した取組が評価されたものです。今後も、教育委員会では、学校・家庭・地域が連携した教育活動を展開し、地域に開かれた学校づくりを進めます。(指導課)

第36回 こだいら市民駅伝大会



2月7日(日)、好天の中「第36回こだいら市民駅伝大会」が開催されました。

1区間3.1キロメートル、全4区間を各チーム4人の走者がたすきをつなぎました。

中学生男子の部は10チーム、中学生女子の部は7チームの参加があり、男子の部は六中男バスAが、女子の部は小平一中陸上競技部が優勝しました。(地域振興部 文化スポーツ課)

第36回こだいら市民駅伝大会結果(上位)

中学生男子の部(参加10チーム)			中学生女子の部(参加7チーム)		
順位	チーム名	タイム	順位	チーム名	タイム
1	六中男バスA	46分50秒	1	小平一中陸上競技部	54分19秒
2	小平市立小平第三中学校男子バスケットボール部	47分44秒	2	小平三中陸上部女子	56分18秒
3	六中男バスB	49分33秒	3	小平六中A	57分26秒

※チーム名は参加申込書の記載のとおりです。

「いじめゼロ」に向けた小平市の取組

小平市では、子どもたちが自分も友達も大切にしながら、生き生きと毎日を過ごせるよう、いじめを生まない、許さない学校づくりを進めてきました。

今号では、今年度新たに取組を始めた、インターネットを通じて行われるいじめ対策の推進と、いじめ問題対策連絡協議会の取組を中心に、ご紹介いたします。

1 ネットいじめから子どもたちを守るために

インターネットや携帯電話などが普及する中で、子どもたちがネット上のトラブルに巻き込まれるケースが報告されています。スマートフォン、携帯ゲーム機、パソコン、タブレット端末、音楽プレイヤーなど、ネットにつながる機器にはさまざまなものがありますが、子どもたちがどのような使い方をしているか、大人にはよく見えないのが現状です。市では、中学生全学年のネット利用の状況をアンケートで把握した上で、情報の安全な取扱いについて正しい知識をもち、適切な判断や行動ができるよう、中学2年生の全学級で情報モラル教育を行いました。

2 子どもを見守り育てる関係づくり(いじめ問題対策連絡協議会)

いじめ問題対策連絡協議会は、いじめ防止に係る機関や団体の連携を図ることを目的としています。1月27日に、第2回目を開催し、「子どもが相談しやすい環境づくり」をテーマに話し合いました。

3 自分たちでいじめをなくそう

子どもたちの主体的ないじめ防止の取組を進めるため、自分のことも友達のこと大切にするポスターや標語を作成しています。作品は3月に市役所で掲示しますので、ご覧いただき、ご家庭でいじめ防止について話題にしたいだければ幸いです。

相談に関する市や学校の取組には、次のようなものがあります。

- ▼いじめ・体罰ホットラインメール
- ▼ふれあい(いじめ防止強化)月間におけるアンケート調査や教育相談室の土曜電話相談の実施
- ▼スクールカウンセラーの全員面接(小5・中1)や授業観察、スクリーンショットワークの活用
- ▼学校の委員会活動による悩み相談や相談箱の設置
- ▼各委員からは、次のような意見が出されました。
- ▼保護者同士が仲良くなること
- ▼気になる子どもに進んで声をかけること
- ▼ほっとできる場を提供すること(休み時間の読み聞かせなど)
- ▼各機関や保護者が、互いの役割や出来ることを意識し、助け合うこと

▼困ったときにSOSが発信できる子どもを育てること

いじめは未然防止が大切ですが、起きてしまった場合には、できるだけ早く発見し、解決できるように、子どもの情報を共有できる関係づくりを学校や地域で広げていきたいと思います。

ネットですべてはいいけど、日常生活でもやっつけてはいけない言葉が心に響いた。

傷付かない。傷付けない。自分を守りながら友達を守る。困らせる人から助ける人になる。

